

月別概況（平成23年）水産

1月

生鮮水産物

1kg 当たり平均単価 521円

一般近海及び小釣物では、ヤケイカが豊漁。一週間10t～20tの入荷。マナも大量に入荷するがサイズ小さく軟調な動き。その他の魚は、入荷減も弱保合。青物では、月の前半は例年通りの気温であったが、後半に入り急激に気温が下がり入荷にも影響があった。月の前半には、氷見のブリが入荷し量も多かったが、弱めの取引が続いた。養殖物では、瀬戸内の出荷が終わりブリ・ハマチの相場が末頃より強含み。カンパチは、相場横ばい。活鰻は、国内シラスの不漁と台湾の在鰻の少なさにより台湾産が品薄高。太物では、全体的に日々入荷が少なく本よこ高 知産3kg1000円～1500円、宮崎3kg800円～1200円、びんよこ、かつを入荷少ない。甲浦よりピンチョウトロ身（ロイン）700～800円。沖縄産目ハ、キハダ1000円～2000円。輸入物は、台湾、プーケ中心、小売筋、刺身商材動き悪く値段つかない。

冷凍水産物

1kg 当たり平均単価 956円

年末年始にかけて徐々にノルウェーサバの製品の国内搬入始まるも大型サイズ丸物の影響を受けて国内品薄状態が続く。これからも2月にかけて、旧正の為中国各工場ストップの為品薄感は払拭できない模様。

加工水産物

1kg 当たり平均単価 360円

年明けは、各地とも漁もなく、前売りも非常に動き悪い。イカナゴ漁も三重に少々とれただけで、ほとんどなし。昨年末までちりめん漁があったので仲卸も在庫を持っているので荷受は売れなかった。

2月

生鮮水産物

1kg 当たり平均単価 494円

一般近海及び小釣物では、悪天候、低水温の為入荷減少も保合。釣りのサワラ、タチウオ入荷減で堅調な動き。アワビ解禁3500～4000円と軟調。青物では、天候不良の日が多く気温の寒暖差の大きい月で入荷量も著しく増減が大きかった。ブリ、ツバスの入荷は安定して値も強めの日が多かった。養殖物では、ブリは毎週浜値の値上げがみられ堅調。高知でハマチの新物2年物の出荷始まる。徳島等沿岸での水温の低下が激しく養殖場の魚が弱る等の影響が出た。太物では、本よこ高知産3k～入荷あるも日量約20本強保合で1800～2000円/kg続く。びんよこも影響受け沖縄4入～6入600～1000円/kg。輸入キハダは、搬入少ないが小売筋売れ悪く弱保合。近海物キハダ沖縄・高知（甲浦）産も浜値届かず売れ悪い。

冷凍水産物

1kg 当たり平均単価 777円

冷凍貝柱は、全体的な玉不足から各サイズ価格強含み。去年と比べてk/200～k/300円の値上がり。荷主からの出荷もそのつどの在庫確認条件となり、より一般の値上げとなるものと思われる。

加工水産物

1 k g 当たり平均単価 3 2 8 円

イカナゴは、淡路中心に漁多く古セも安値で数もさばけた。2月の後半から小女子漁も始まりややにぎわいをみせた。

3月

生鮮水産物

1 k g 当たり平均単価 5 5 4 円

一般近海及び小釣物では、悪天候と低水温で入荷減も保合。釣りのタイ入荷例年より多く弱保合。ヒラメ小安い、カレ弱含み。青物では、例年よりも気温の低い日が多く入荷減、加えて震災の影響も大きく関東・東北地方の入荷が減少した。地物のサヨリ、のれそれ等は、入荷多いが値は弱め。養殖物では、カンパチの売れ行き悪いままだが、新物が出るまでの品薄状態が続き浜値の上昇が続いている。震災の津波の被害もカンパチの品不足に影響している。大物では、本よこ宮崎より入荷少なく1200~2000円、びんよこ入荷数まちまち高知産1入3kg600~1200円、宮崎産300~600円、初かつを搬入少なく震災後、千葉産が入荷しなくなり高知産品薄状態続く。170~300円輸入キハダ台湾産、プーケット産400~1500円、さしみ商材動き悪い。

冷凍水産物

1 k g 当たり平均単価 6 9 9 円

震災の影響の為、三陸産のイクラの大半が出荷不能となり上げ相場になった。しかし絶対数量が少なくなった為、各商社と現物在庫を確保する為の商談が進んでいる。

加工水産物

1 k g 当たり平均単価 3 2 0 円

去年は、ほとんどなかった和田島の小女子は、今年は、3月中漁がありかなりの入荷があったが相場は安かった。3月後半からは、大震災の影響もあってか前売りは、かなり悪くなったが、鳴門のわかめの注文だけ殺到した。

4月

生鮮水産物

1 k g 当たり平均単価 5 8 2 円

一般近海及び小釣物では、定置網、底引き網ともタイが大漁で軟調な相場が続く。サワラは、安定入荷もサイズ小さく弱保合。青物では、先月に続き月の前半は気温が低く後半はやや気温が高く天候の悪い日が多く入荷量の増減が多かった。サワラ、サゴシの入荷は安定、強めの取引が多かった。養殖物では、天然魚が大漁の為、焼き物、刺身商材の養殖魚の需要は、減少、売れ行き悪い。太物では、本よこ入荷少なく1500~1800円で堅調。びんよこ入荷多く弱保合。かつをは、小型サイズながら下旬にかけ入荷多くなるも引合い強い。輸入キハダは、依然入荷少なく、また小売筋売れ悪く動きも鈍い。

冷凍水産物

1 k g 当たり平均単価 7 9 7 円

鮭、鱒は、3月東日本大震災の影響で多くの定塩製品を生産する加工場が被害を受け、原料を保管していた冷庫も出荷不可となる状況の中、現存する製品は、順調な荷動き。例年なら三陸養殖が始まる時期だが震災の影響価格が強含みに推移すると思われる。

加工水産物

1 k g 当たり平均単価 2 4 0 円

小女子漁もほぼ終わり淡路の古セ、新子のみの入荷となった。ちりめん漁までの間の狭かいで在庫のちりめん、煮干等を販売するぐらい前売りは悪く軟調であった。

5月

生鮮水産物

1 k g 当たり平均単価 5 2 7 円

一般近海及び小釣物では、先月よりタイの安定入荷が続き弱保合、後半は天候が悪く全体に入荷減少したが、相場保合。青物では、月を通して天候の悪い日が多く入荷量の少ない日も多くあった。サワラ、サゴシは、入荷が安定し、地物は、入荷が少なかったこともあり強めの取引が多かった。養殖物では、ハマチ、カンパチ共に下げ相場にも関わらず売れが鈍い。タイは、動きが鈍い上に上げ相場の様子、今後更に厳しくなりそうだ。太物では、本よこは、入荷少なく堅調1000~1600円売り。びんよこ、かつをは、高知産搬入多く、びんよこは、弱保合。かつをは、小型サイズ中心で1入2,0~3,0kgサイズ1000~1500円2入・3入は、300~600円/kg輸入キハダは、台湾中心で400~1500円小売筋売れ悪く動き鈍い。

冷凍水産物

1 k g 当たり平均単価 7 0 6 円

今期カニの原料は、米国内の在庫が全く無い状態で、高値でも買付している状態で、日本は、米国始めヨーロッパ等買い負けており原料の高騰もあって高値が続きそうだ。

加工水産物

1 k g 当たり平均単価 2 5 1 円

例年なら春ちりめん漁でにぎわうはずの和田島は、全く漁なし。全国的にも漁がなくここ10年来最低の水揚げだった。淡路も5月後半までもイカナゴが大漁でエサもいっぱい売れない。

6月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 546円

一般近海及び小釣物では、悪天候の為入荷減も弱保合。ハモは、入荷安定も高値2,000円と例年より安い。アワビ入荷安定もサイズ小さく弱保合。青物では、月を通してサワラ、サゴシの入荷が少なく月の前半は、強めの取り引きが続く。月の後半は、やや値は落ち着き保合の相場、イワシ類の入荷が多くやや弱めの取り引き続く。養殖物では、カンパチ高値安定、売れ悪し、ハマチ、ブリは、相場横ばいだが、産卵がからんでくるので少し上げになるかも。だが売れは、共にあまりよくない。太物では、本よこ長崎産2入6kg～主体500円～1,000円、びんよこ高知、和歌山主体2入4.0～5.0kg入荷多く保合。高知産かつお日帰りのみ1,000円～1,400円、2入3入300円～600円売れない。輸入キハダ入荷少ないが弱保合。鳥取産まぐろ入荷あるも800円～1,500円。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 681円

冷凍つづ貝(カナダ)は、生産地の漁獲枠の厳格化、引き合いの強い韓国向けに加え、中国からの引き合いも強くなっており現地価格は、より一層上昇傾向にあり、国内製品単価も値上げ傾向が続いている。

加工水産物

1kg当たり平均単価 356円

6月に入っても和田島ちりめん漁全くなし。全国的にも不漁で相場は、高値になった。順調に売れていた鳴門わかめも1軒が廃業して踏んだり蹴ったりであった。

7月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 663円

一般近海及び小釣物では、サワラ・サゴシの入荷安定しサイズ小さく弱保合。台風の影響で入荷減少、ハモ入荷多く保合。うなぎ、車エビ、カレは、堅調。青物では、サワラ、サゴシの入荷は、安定しており保合。月の中頃は、台風の接近によるシケで入荷量は、激減した。今月から新サンマの入荷始まるが入荷少なく弱めの取引。養殖物では、土用丑があったが、うなぎの値段が昨年に比べかなり高かったのと台風の影響もあり、売れが鈍かった。カンパチ相場弱含み。ハマチ、ブリは、横ばいから少し上げ。太物では、本よこ長崎、山陰中心に6,0～7,0/2入で入荷あるも堅調に売れる。千葉・和歌山より5,0～6,0/2入で入荷、小売筋引合い弱く500～700円。かつをは、長崎中心に3,0/1入で800～1000円、6,0～7,0/2入で600～800円。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 1,055円

タコは、モーリタニア夏漁悪く年末に向け上げ相場が予想される。特に量販店向の小型原料が水揚げ少なく欠品の恐れが出て来ている。

加工水産物

1 k g 当たり平均単価 4 3 0 円

7月もちりめん漁和田島は、全くなし。7月20日過ぎから少々とれだした。煮干は、伊吹物品物悪く、天草も全くない。エビは、やや多くの漁があり干海老は、順調に入荷した。

8月

生鮮水産物

1 k g 当たり平均単価 6 1 6 円

一般近海及び小釣物では、カレの500g以上は、5,000~8,000円の高値が続く。うなぎも4,000~7,000円、ハモ・タコは安定した入荷で保合。青物では、日本海のハマチ入荷多かったが、焼物商材で猛暑の為、相場は安い。北海道さんま新物始まったが浜相場まだ高くセリは弱含み。養殖物では、ハマチは、盆までは例年並で売れたが、明けからはサンマや鳥取の天然ツバスで売れは悪かった。鰻は、丑の日の相場が高かったので売れはよくなかった。カンパチの相場は、横ばい。太物では、長崎、北海道中心の本よこ1,600~2,000円/kgびんよこ千葉産中心3,0~6,0kg500~800円、かつをは長崎産4kg中心800~1,200円宮崎産500~800円キハダは、輸入物搬入少なく宮城・千葉産中心サイズ4,0~5,0中心500~1,500円/kg。

冷凍水産物

1 k g 当たり平均単価 6 6 5 円

冷凍つぶ貝は、ロシア産原料高騰の為つぶ貝スライス、つぶ貝ホール共に値上がり。今後も原料価格によっては更なる値上げの可能性あり。カナダ産つぶ貝も現地漁模様悪い上にアジア（中国、韓国）からの引合強く価格急上昇。

加工水産物

1 k g 当たり平均単価 5 0 1 円

3ヶ月ほどなかったちりめん漁が8月になって大漁になり不漁に泣いていた漁師も一息つけた。相場はやや安値だったが、今までなかったので動きは良かった。煮干の漁がなくなっている。

9月

生鮮水産物

1 k g 当たり平均単価 6 2 6 円

一般近海及び小釣物では、2度の台風の影響で入荷が少ない日が続くも相場は軟調、ポーゼ、カマス、タチウオ共にサイズ小さく弱保合。青物では、ハマチとサワラは、日本海側からの入荷安定。台風の影響で入荷少ない日もあったが相場は、全体に弱含みであった。養殖物では、ハマチは、先月に続きサンマ、天然ツバスの入荷が多かった為売れ悪く相場も加工気味であった。カンパチは、横ばい状態であった。太物では本よこ、北海道・長崎より5~6kgサイズ1500~2300円入荷少なく堅調。びんよこは、高知産の小型サイズ350~800円。かつを気仙沼より4kgUPの大型サイズが多く5000~10000円。キハダマグロ輸入物搬入少なく品薄高が続く。

冷凍水産物

1 k g 当たり平均単価 6 1 5 円

トラバガニの相場、昨年一昨年と供給先メインのロシアの資源流出を防ぐ方針が強く日本国内の品薄感を受けて高値で推移しており、去年以上に年末に向けての商談は、難しくなりそうだ。

加工水産物

1 k g 当たり平均単価 4 0 6 円

8月に大量だったちりめんも2回の台風でなくなった。1回台風が来ると前後1週間は、漁が出来ない為、当然売り上げも上がらなかった。煮干は、まあまあ入荷した。

10月

生鮮水産物

1 k g 当たり平均単価 5 6 4 円

一般近海及び小釣物では、アジアカエビが大量入荷の為軟調な動きが続く小アジ、ポーゼは、祭り時期の為堅調。青物では、ツバス、ハマチの入荷続き相場弱保合。さごしの入荷も順調で弱含み。日本海からの大型さわらの入荷もあり品質良いが相場全体に弱い。養殖物では、ハマチは、祭りシーズンであったので週末は、動きが良かったが、平目は、先月よりも売れ悪しであった。カンパチもハマチも同様であった。ウナギは、在鰻の先細り感により細物においては、特に品薄高。太物では、和歌山、高知より本ヨコ2k/1尾サイズ搬入多く800~1000円で横バイ。宮城より戻りかつを搬入は、多くないが月前半は、400~700円/kg弱保合、後半は、800~1000円で価格もち直すも小売筋売れ悪い。

冷凍水産物

1 k g 当たり平均単価 8 1 5 円

北洋魚においては、需要期を向えるが、中国・ロシア各国の需要に引っ張られ対日向けオファーは、高値相場になったが末端の値上げ案が難しく荷動きが悪かった。

加工水産物

1 k g 当たり平均単価 4 7 1 円

昨年の10月は、大量だったちりめんも今年は、例年並の漁だったが全国的に漁が少ない為相場は昨年よりk、1000円も高い。煮干は、入荷多く弱含んだ。

11月

生鮮水産物

1 k g 当たり平均単価 5 2 7 円

一般近海及び小釣物では、先月に続きアジアカエビ大量入荷の為軟調。ポーゼ・カマスの入荷安定、ポーゼ堅調カマス軟調。ツバス・サワラ共弱保合。青物では、ツバス・サゴシ入荷安定していた。相場弱含みで量販店向けで荷動きあった。いわし類の入荷少なく相場は全体に弱い。養殖物では、ハマチ・カンパチ売れ悪く相場は下降気味である。太物では、高知産2.0~3.0kgサイズ本よこ800~1200円で保合。びんよこは、ほとんど入荷なし。宮城、気仙沼産のかつをは、20日頃終売900~1000円で横ばい。キハダマグロは、高知産釣り者30.0kg代1000~1200円。輸入キハダは、搬入少なく1300~1500円堅調。

冷凍水産物

1 k g 当たり平均単価 6 9 4 円

帆立貝柱今シーズンの水揚げは、ほぼ終了し製品価格は、最後まで下がらず終了。小型の6 S～7 Sサイズ完売の状況。年末をひかえて更なる値上の可能性あり。

加工水産物

1 k g 当たり平均単価 4 6 8 円

1 1 月に入ってもちりめんは、数量は少ないが値段がますます高くなり k 3000 円近くまでなった。全国的にも漁少なく各地からの引き合いも強かった。煮干は、そろそろ終りかも。

1 2 月

生鮮水産物

1 k g 当たり平均単価 6 8 5 円

一般近海及び小釣物では、アジアカの入荷安定で保合、マナカツオ入荷増加もサイズ小さく弱保合。カマス入荷続くが軟調、アオリは、入荷安定し保合。青物では、前半は、ハマチ、ツバスの入荷順調で弱保合、後半は、天候不順により入荷不安定、ロシア産ズワイ品薄。養殖物では、ブリ、ハマチ新物が出始めた秋口より売れ行き悪く、1 2 月に入り生産の余剰感がみられ相場は、昨年よりも安値。年末年始は、量販店を中心に販売量は多かった。太物では、長崎・対馬より本よこ入荷あるも堅調で推移。輸入キハダは、搬入少なく品薄高続く。びんよこは、後半に沖縄より入荷するも保合。かつをは、長崎産 4～5 kg 物入荷少なく強保合。

冷凍水産物

1 k g 当たり平均単価 1, 0 2 1 円

アラスカ生タラバ漁獲枠は、昨年度の約半分となり新物生タラバの価格は、昨年より 3～4 割高での決定でかなりの割高感で低調な荷動きとなる予想であったが後半荷動きも活発、結果昨年対比以上の供給量であった。

加工水産物

1 k g 当たり平均単価 5 1 4 円

数の子は、昨年より 1 割以上安値だったが品物がダブつき最後には、投げものも多く出た。ちりめん漁は、並品ではあるが年末まで漁があり単価も高かった。